

平成29年度 学校評価総括表 伊丹市立昆陽里小学校

教育目標		命輝き 笑顔輝く 昆陽里小学校 一心豊かにたくましく生きぬく力を育てる						
重点目標		①一人ひとりを見つめ、個性を生かす授業の創造 ②自ら学ぶ意欲を培う授業の実践 ③支持的風土のある学級づくりの推進 ④人権を尊重する教育の推進						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 漢字力・計算力をつける。 学校で統一したテキストを使用し、視写力をつける。 学校で統一したテキストを使用し、音読に取り組む。 算数習得型テストの実施 全学年が1回以上授業を公開する。 授業公開ウィークを実施する。	基礎学力チェック(漢字・計算)を年度初め、年度終わりに行い平均点が向上する。 年度初めと年度終わりにチェックを行い、視写した文字数の平均が増える。 テキストの文を何度も読み、1文以上暗唱する。 平均点が80点をこえる。 授業公開数が6回をこえる。 授業公開数が10回をこえる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めのチェックは行えたが年度終わりのチェックの時期が遅く、現時点では成果が未定である。 年度初めのチェックは行えたが年度終わりのチェックの時期が遅く、現時点では成果が未定である。 子どもたちは、楽しく音読暗唱に取り組めたが、時間の確保が難しかった。 単元によって平均点が80点を超えない部分があった。 授業公開は、6回を超えた。校外からも多くの先生に見学いただいた。 授業公開数は10回を超えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 2月中に学年末チェックを行い、補充学習を行っていく。 授業の中で書く機会を今以上に増やしていく。 使い方の研修を行い、いつどのように行うかを広める。 子供たちが習得しやすいよう授業改善の研修を設定する。 授業の内容が改善されるように公開方法を工夫する。 授業したものがより効果を感じられるように指標を導入していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の徹底により、基礎的、基本的な知識・技能を習得させ、学力の定着をはかる取り組みを続けてほしい。 子どもたちの基礎学力の定着について、経年比較できる取り組みがあるといい。 放課後学習や復習タイムなど、個別の児童への指導を続けてほしい。 速く、そして数多くすることも大切ではあるが、文字を書くことも計算の仕方にしても丁寧に行うことを大切にしたい。 めあて学習のめあてが子どもたちに具体的にイメージできて、見通しを持てるよう授業を進めてほしい。 	
	学習習慣の定着と読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を充実させ、家庭学習の定着を図る。 読書活動を充実させ、表現力・創造力の豊かな子どもを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の意識向上と保護者の関わりをより促すよう、がんばりカードの形式を改善する。 朝学習の時間に週1回読書の時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> どの子も学年の目標時間まで家庭で学習する。 集中して10分間読書に取り組ませる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 目安の時間をめざして学習しているが、高学年の目標時間への達成率が低い。 全学年、週1回の読書タイムで集中して読書にとりくめた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、家庭へ協力を要請する。 高学年の児童には学習計画を立てさせ、見通しをもたせる。 図書室の教室の確保(2教室) 児童の興味関心を引き出すような多様な図書の選定に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での学習習慣が定着するよう、目安の時間に見合った量の宿題を出す必要がある。 宿題等、子どもたちへの取り組みについて丁寧に評価することも大切なことだと思う。
豊かな心 ・ 健やかな体	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「心の教育」を推進する。 いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童会によるあいさつ運動の推進 学校朝礼での生活目標の啓発 人権学習の実施 年3回アンケートの実施と早期対応 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおいて、「あいさつをしている」で90%以上の回答 児童アンケートにおいて「生活目標を守れている。」で90%以上の回答 児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」で90%以上の回答 児童アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」「学校行事は楽しい」で90%以上の回答 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートにおいて、「あいさつをしている」で94.6%の回答。 児童アンケートにおいて「生活目標を守れている。」が86.5%の回答。 児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」で93.8%以上の回答。 児童アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」が87.5%「学校行事は楽しい」で96.6%の回答。平均92.05%を得た。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も児童会を中心に挨拶運動、挨拶強化週間などの取り組みを継続する。 生活目標が意識できるよう掲示物や啓発の方法を検討していく。 今後も人権学習、道徳教育を充実させていく。 「学校へ行くのが楽しい」と回答する児童が増えるよう、全ての子が過ごしやすい学級づくりに学校全体で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつをする児童が増えてきていることは素晴らしいことである。気持ちのこもったあいさつができるよう、例えば「丁寧なあいさつをしよう」など、工夫をすればいい。 授業や学校生活の中で一人ひとりの子どもを認め、褒めることで自尊心を高め、活躍する場を設けることで自己肯定感を高めていってほしい。 「学校行事は楽しい」と回答した割合は高いが、「学校へ行くのが楽しい」と回答した割合が少し低い。何が原因なのか具体的に考える必要が
	健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 健康的で基本的な生活習慣を育む態度を育てる。 児童の健康の保持・増進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間の外遊びを奨励する こやリンピックを計画・実施する ドッジボール大会を計画・実施する 長縄大会を計画・実施する 雨天時に体育館を開放する 歯磨きカレンダーを活用して歯磨きの習慣をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加方法やルールを工夫することで、多くの児童に参加させる。 より多くの児童が歯磨きを習慣化できるようクラスごとの歯磨き表彰を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの行事に学年を問わず多くの児童が参加することができた。 各行事が日々の外遊びにつながっていない。(外遊びの日常化に課題) 児童アンケートにおいて「給食後、はみがきをしている」が去年度より上昇しているが、習慣化されていない児童が固定化している。兵庫県学校歯科優良校表彰で優良校として表彰された。 	<ul style="list-style-type: none"> 各行事については工夫を加えながら継続する。 児童が外で体を動かしたくなるような道具や場作りについて検討していく。 習慣化さえ得ていない児童に対しては、児童委員会活動のみではなく、担任からも声かけをするなど個別の対応をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「廊下・階段は右側通行、ポリウム0」の取り組みにより、学校が落ち着いた雰囲気になっている。 生活習慣など、学校だけの問題ではなく、家庭の協力が何よりも大切である。

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・学校便りを月1回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを毎日1回更新する。	・学校便り、学年便りを月1回以上発行する。 ・学校ホームページを毎日1回更新する。 ・どの学年もまんべんなく更新する。	C	・学校便り、学年便りを月1回以上発行できた。 ・学校ホームページをほぼ毎日1回以上更新し、1日約250人の閲覧があった。 ・学年に更新頻度の偏りがあった。	・学年担当が定期的に更新する機会を設定して、偏りをなくしていく。	・学校通信の発行はもちろんのこと、また、ホームページの更新により学校の最新情報がすぐに伝わり、学校の取り組みがわかる。
	学習環境の整備	・学習環境の整備を行う。	・清掃週間等を活用しながら、清掃指導の徹底を行う。 ・学校朝礼等で児童への清掃指導を行う。 ・教育活動に必要な教室不足を解消させる。	・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が、90%以上になる。 ・教育活動に必要な教室が不足しているため、今年度中に増床する。	C	・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が、93.7%と、前年より0.2%減少した。 ・教育活動に必要な教室が不足している(少人数学習・生活指導・図書室・体育時の着替え・英語学習・生活科)	・朝礼や清掃週間を活用し、児童への清掃指導を行っていく。 ・清掃用具の改善・購入していく。 ・児童クラブの校舎外設置を市に継続して要望していく。	・子どもたちに必要な学習環境を整えていくことは大切なことである。順次進めていってほしい。
	地域との連携	・地域との交流を図る。	・オープンスクール・運動会・図工展等行事の公開、参観授業等を実施し、地域との交流を深める。 ・地域の水田ビオトープで全学年が米作り体験を行う。 ・こやっ子グリーンサポーターズを中心に学校の植木や花壇等の環境整備を保護者と共に行う場をもつ。	・運動会に地域参加プログラムを設ける。 ・学校行事の公開を積極的に行う。 ・全学年による米作り体験活動を地域の協力を得て継続的に実施する。 ・花壇の花々の植え替えや水やりを保護者と共に定期的に行う。	A	・運動会で地域参加プログラムとして大玉おくりを行い、多くの参加があった。 ・教師が地域行事に進んで参加し、交流できた。 ・地域、保護者の協力を得て行事を実施できた。 ・教師だけでなく、園芸委員会の児童も定期的に植え替えや水やりができた。	・学校行事を公開し、地域との交流をととして連携を深めていく。 ・地区会などで情報の発信を継続して行う。 ・米作り体験を、地域の協力を得ながら継続する。 ・学校の環境整備を地域や保護者と連携して行う。	・夏祭りや米作りの代掻き、田植え、稲刈り、案山子づくりと子どもたちが地域の中で育まれている行事はとても大切である。 ・若い先生方が中心となって積極的に地域行事に参加していただいている。昆陽小ならではの取り組みである。
保護者との連携	・行事の公開、懇談会、参観授業を充実する。	・懇談会の内容の精選と内容の充実を目指す。 ・参加しやすいように日程を組む。 ・PTA学力向上委員会と連携し、学習習慣を身につけさせる。	・半数以上の参加を目指す。 ・保護者アンケートで「学校は保護者の願いに応えている」と90%以上の保護者が回答することを目指す。 月1回程度、PTA運営委員会と協力し、家庭教育について啓発を行う。	B	・懇談会の参加率が伸び悩んでいる。 ・再度連携を模索しながら、家庭学習が んばり週間を学期に1回設定した。	・保護者の要望と学校行事の調整をしながら、引き続き参加を呼びかける啓発活動を続ける。 ・家庭学習が んばり週間の方法を工夫する。	・子どもたちの安全や健全育成のためには、保護者との連携は不可欠である。生活習慣を見直し、学習習慣を身につけさせることで学力の向上につながると思う。 ・懇談会で伝える内容が学年が進んでもほぼ同じ内容になっていないか、懇談会のテーマを決めて行うなど工夫が必要ではないかと思う。	

学校関係者評価総括

- ・子どもが置かれている家庭環境の差が大きくなる中であるが、家庭においても学習できる環境を整備し、学校、家庭、地域が連携し子ども達の健全な育成を目指していきたい。
- ・子ども同士が教え合う活動を大切にする中で、子どもたち同士で学び合い、そのことが子どもたちの学習に対する意欲の向上につながる。
- ・「学校へ行くのが楽しい」と思える児童が増えることを望むが、何が子どもたちに「学校へ行きたくない」と思わせているのかを受け止めてほしい。
- ・学校は保護者に懇談会等に参加してもらうための目新しい工夫をし、保護者は子どもたちの健全な成長のためと意識を変え、誘い合って参加することからはじめていってほしい。
- ・学校、家庭、地域が連携して行っている行事は、時間や労力が必要だが、子どもたちの成長によい影響を与えていると考え、今後も進めていきたい。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・基礎基本の定着を図り、わかる授業づくりに努める。
- ・家庭と連携して、児童の生活リズムを見直し、学習習慣を身につけさせる。
- ・児童会活動を中心としたあいさつ運動の継続。
- ・廊下階段での右側通行、ボリュームゼロの推進で健康で基本的な生活習慣を育む。
- ・こやリンピックなど外遊びをとおしての体力作りの推進。
- ・学校だより、ホームページ、学年・学級通信で学校の情報発信を積極的に行う。
- ・学校、家庭、地域が連携し児童の健全な育成を目指す。